

# \*遊空間\*



～1～



筆者

◇プロフィール  
永井雄人(ながい・かつと)1952年生まれ、東京経済大学経営学部経営学科修士課程卒業、NPO法人白神山地を守る会代表理事、同白神自然学校代表理事、合同会社白神アロマ研究所代表社員、自然体験活動推進協議会(NEAL)主任講師環境カウンセラー。

白神山地の里山の植生の一つにクロモジがある。日本固有種の香木で、北海道から本州、四国、九州の温帯を中心に丘陵地帯や山地に多く自生している。

種類はクロモジ、オオバクロモジ、ヒメクロモジ、ケクロモジなど複数がある。暮らしの中で生薬、野草茶、お菓子の爪ようじ、かんじき、狩猟の獲物を束ねたり、さまざまな暮らしの衣食住や健康に役立てられてきた。その使い方から地方によっては「福木」とも「鳥柴」(とりこしば)と呼んでいる。白神山地はオオバクロモジという種類である。

私たちは津軽森林管理署と林産物買取契約を結び、契約エリアから環境に配慮して間引きして採取してくる。そして、白神自然学校一ツ森校内にある、白神アロマ研究所の蒸留窯で蒸留し、精油と蒸留水を抽出する。抽出中は学校全体にクロモジの香りが漂う。一部葉っぱは乾燥して「クロモジ茶」としても販売もしているが、ハーブティーの香りがして、体の中からリラックスする効果がある。特に白神のクロモジは成分分析をするとリナロールやゲラニオールなどの芳香成分を多く含んでいる。全国的にみても高い数値があるのが特

徴である。窯の底に残る残渣液は、草木染め用に残液として利用している。ストール、スカート、ハンカチなどにして販売したり染めも体験できる。白神山地のブナ林をトレッキング希望者が首都圏から多く訪れた時に必ず言われる言葉がある。空気がおいしい、

刻まれていくと考えている。コロナ禍の中でマスクの着用、消毒、三密が叫ばれている中、昨年クロモジを使ったマスクスプレーを販売したら、注文が間に合わない人気となった。最近では全国でも樹木スプレーがブームらしい。

## 採取蒸留ツアー提唱

# クロモジの香り体験

水がうまいという言葉。都会の中では味わえない言葉だ。そこにプラスして白神山地の癒やしの香りとしてオオバクロモジが加わったら脳裏に深く

いが、ストレス、運動不足、デスクワーク、悪い姿勢、長時間パソコンやスマホ使用といずれも呼吸が浅くなりがちで、体を緊張させる日常生活が



採草をしたツアー参加者



クロモジの葉のえり分け作業

とで、精油と蒸留水が取れる。お土産に蒸留水と精油をもらえるツアーを提唱し実施してきた。自分ではさみを持ち枝をカットしていくと、そこから香りが漂い「いい香ったが、今は「体験」を求める人が多いような気がする。白神山地の香りを体験しながら、いい呼吸を楽しみ、心も体もリフレッシュできる。詳しい情報は白神自然学校のホームページに掲載している。

(NPO法人白神自然学校一ツ森学校校長 永井雄人)